

# 「私を放さないでください」

イエスに私たちが子供であることを知っていただく。子供たち、それも幼くて単純な子供なら、階段を一段上がるのにどれほど苦勞することだろう。階段を前にして時間の浪費をしているとしか見えない。やっとのことで一段上がって、また次の段を目指す。手足は勿論(もちろん)のこと、全身の力を振り絞って、再び勝利を得た。もう一段進んだのである。そして、また始める。大した努力だ。しかし、もう少しで昇りきる

という所でつまずいた。あ  
あ、また転び落ちた。傷だら  
けになって涙が溢れ出るが、  
幼子はやり直す。再び階段を  
昇り始めるのである。イエス  
よ、私たちも一人だけだとい  
うなってしまいます。無邪気  
な子供の強くて良き友として  
優しい腕で支えてください。  
昇りきるまで手を離さないで  
ください。昇りきったその時  
こそ、あなたの慈しみ深い愛  
に対して幼子特有の大胆さで  
お応えすることができると  
しょう。優しい主よ、夢中にな  
ってあなたを愛した人々が  
大勢いたとは言え、マリアと  
ヨセフを別にすれば、私ほど  
にあなたを愛する人間は誰一  
人としていなかったし、今後  
もないことでしょう。（鍛  
346）

12月18日

私は自分の祈りを声に出しています。皆さん方も一人ひとり、心の中で、主に告白しているのです。主よ、私はなんとという厄介者でしょう。なんと弱虫だったことでしょう。あちこちで、あれやこれやの機会になんと多くの過ちを犯したことでしょう。さらに続けて申し上げます。主よ、御手で支えてくださったので助かりました。私はどんな罪深いことをやってのけるかわからないのです。私を放さないでください。小さな子どものように扱ってください。私が強く、大胆で、志操堅固であるように助けてください。未熟な子どもに対するように、年をとっても私をお導きください。御母がいつも傍にいて守ってくださいますように。このような助けがあれ

ば、私たちでも、御身を模範として仰ぐことができます。

「できます」の叫びは虚勢ではありません。イエス・キリストはこの神的な道を教えるだけでなく、弱い私たちの手に届くものとし、私たちがその道を歩むように望んでおられます。そのために主は、あれほど遜られたのです。「神としては御父と同格である主が、奴隷の姿をとるまで自分を低めてくださった動機は、これであった。しかし、威厳や権能において遜られたのであって、善性や慈悲においてではなかった」（聖ベルナルド）。

神は善い御方ですから、私たちの道を容易にしてやりたいとお望みになりました。イエスの招きを退けた  
り、拒んだり、呼びかけに聞こえないふりをしたりするのはよしましょう。逃げ口上は許されません。できないなどと考え続ける理由もありま

せん。主は模範をもって教えてくだ  
さいました。「それゆえ兄弟たち  
よ、私は切に願う、主の示してくだ  
さった素晴らしい模範が無駄になら  
ぬよう主に一致し、己が精神を新た  
にせんことを」 （聖ベルナルド）。  
（知識の香15）

.....

pdf | から自動的に生成されるドキュメン  
ト [https://opusdei.org/ja-jp/dailytext/  
Watashi-wo-Hanasa-naidekudasai/](https://opusdei.org/ja-jp/dailytext/Watashi-wo-Hanasa-naidekudasai/)  
(2025/12/19)